

(その一)

年預諸取替覚帳による安政大地震後の記録(從弘化二年) 寄託文書二二八号

解説 年預諸取替覚帳とは三院共通の支出明細で、その年の年預(三院中の持ち回り役、一年交替)が記入し、年間の支出を三院に割り振ったもので、弘化二年(一八四五年)から安政四年十一月(一八五七年)迄、十三年間の記録が残されている。ここには地震や堂の再建などの記事のみを拾い上げた。

原文

嘉永七^甲寅年(一八五四年)

六月廿五日

一 拾匁 福(福寿院のこと)、地震ニ付、破損申立并見舞式人(嘉永七年六月十三日〜十五日の安政大地震について記されて最初の記録である)

七月貳日

一 四匁 福、破損所見分、北代官御出、菓子代両度

八月九日

一 三匁 福、山内破損ヶ所片付人足酒代

閏月(七月)廿六日

一 貳百五拾文 福、宝物掘出し、秀助壺人

八月十七日

一 百八拾四文 文、八丁坂道普請酒代

十一月三日

一 七匁 福、新二郎山内掃除代、三人半

安政二卯年(一八五五年)分

七月八日

一 五匁 福、普請願差出

九月一日御出、同七日御帰

一 四百八拾文、破損所見分、藤林氏御出逗留中茶酒砂糖代遣

安政三辰年(一八五六年)分

二月十三日御出、同十九日御帰り、藤林基助殿山内上り木見分切取、普請用木為取御逗

留中諸入用
老貫參拾貳文

四月廿日御出、同廿三日御歸

一 五十文 茶 藤林基助殿□□出来、見分御出入料
貳百文 上菓

十月卅出、十一月二日歸寺貳人

一 貳拾九匁八分貳厘

内拾四匁四分 □□□□代、土産物代

山内普請之儀、御伺勤メニ而古市ヨリ□方迄罷越土産、両手代并賀来氏、藤林氏、四人
へ外出歸諸入料

十一月十二日

一 貳百文 菓子

一 百文 茶

御勘定所福来五兵衛殿様、普請見分御出

安政四巳年（一八五七年）入料

正月六日

一 六匁五分 右ハ普請用ニ付、近日入用

五月十九日

一 貳匁五分 山内出来見分藤林氏御出

八月初分

一 五匁 多門院風ニ而倒候ニ付申立

〃十日

一 貳匁五分 石涉栄治郎殿多門見分ニ御出

十月三日

一 三匁 文殊院屋根さしかへ手間代

十二月廿日

一 九匁五分 鐘堂直し大工人足代